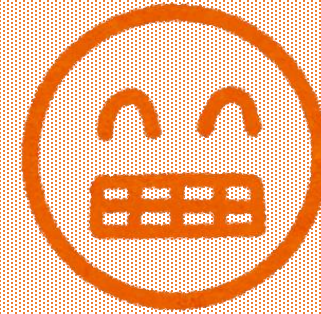


# 第1部

六郷助けあいプラットフォーム

報告会



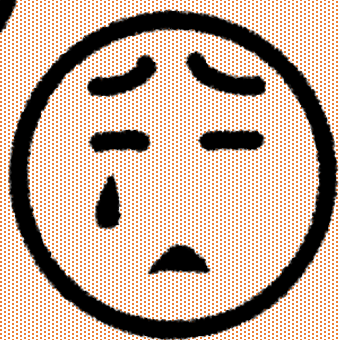
平成30年5月8日(火)

# 本日のタイムスケジュール

時間	内容
18：30	開会のあいさつ
18：35	第1部 報告会
19：05	小休憩
19：15	第2部 話し合いの場の説明
19：25	アイスブレイク
19：40	子どもについての話し合い (15分×2回)
20：10	交流タイム
20：25	まとめ
20：30	終了

人々の暮らし方が多様化してきている中、  
地域の福祉課題が複雑化・重層化してきています。

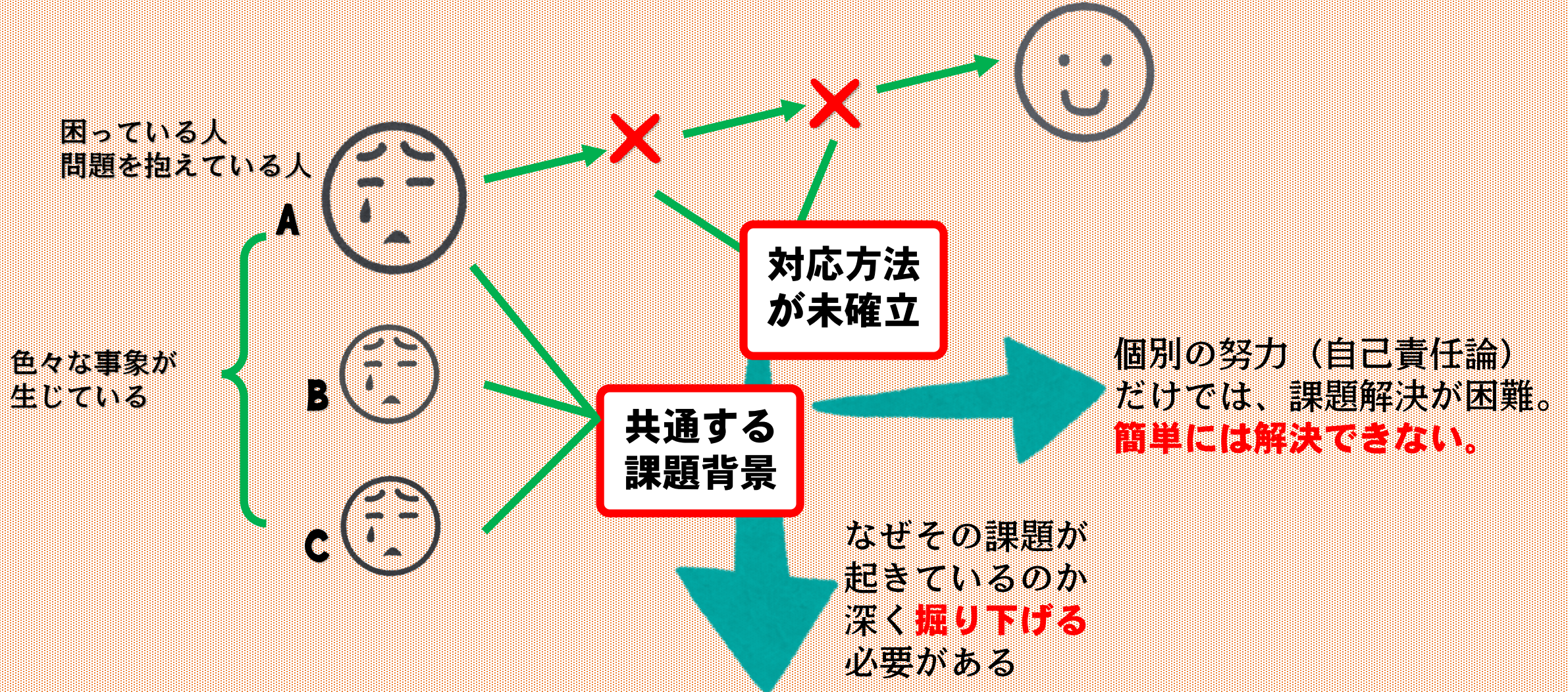
子育てと親の介護を  
一人で行っていて、  
心身ともに限界・・・



80代の親と50代  
の子の2人暮らし。  
地域とのつながりが  
なく将来が不安・・・

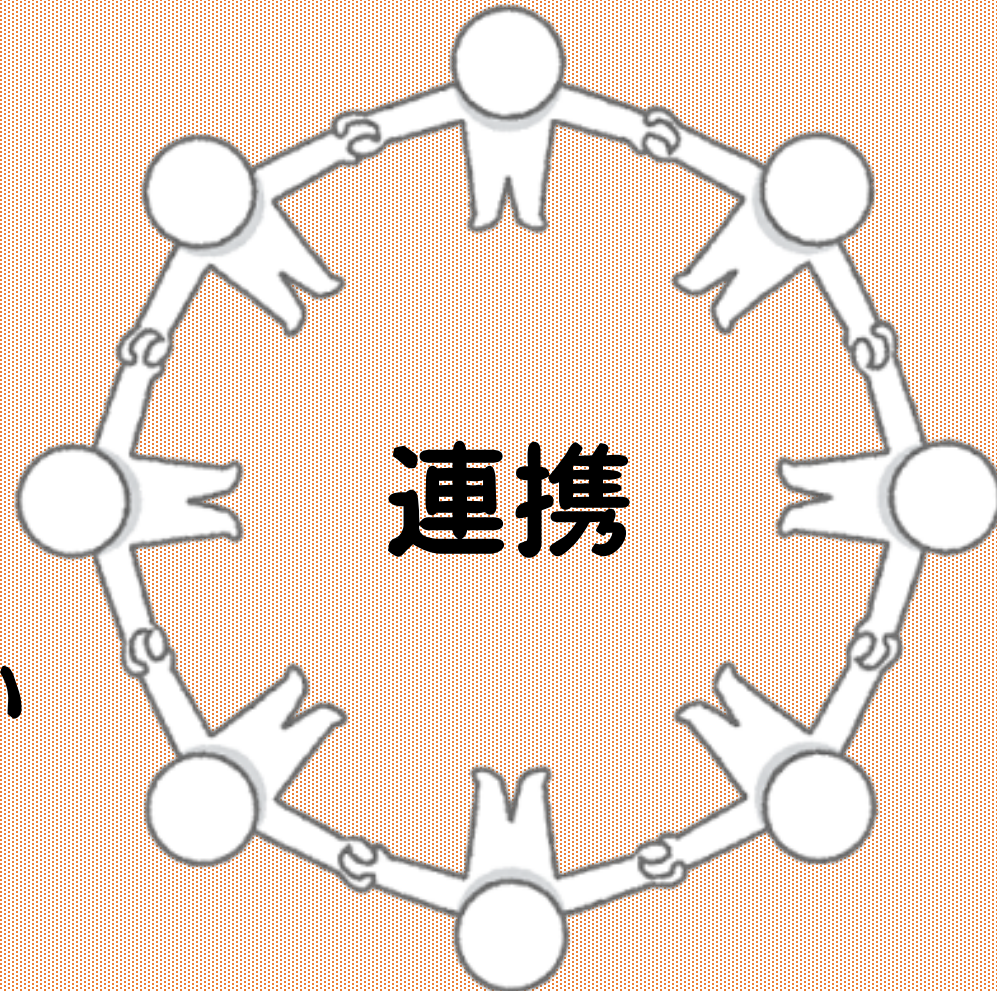


# その課題を解決するためには、ひとつの団体だけでは解決が困難な“課題の壁”があります。



この壁を乗り越えるためには、地域住民、行政、社会福祉法人、区民活動団体、専門家などの関係機関（者）がそれぞれの強みを活かし、連携して解決に取り組む必要があります。

正解がない



完成していない

個々の対応での  
限界がある

大田区には、すでにたくさんの区民活動や自治会・町会活動が盛んに行われていて、その中には全国的にも先進的な取り組みがあることが特徴と言えます。



自宅を活用した子どもの居場所

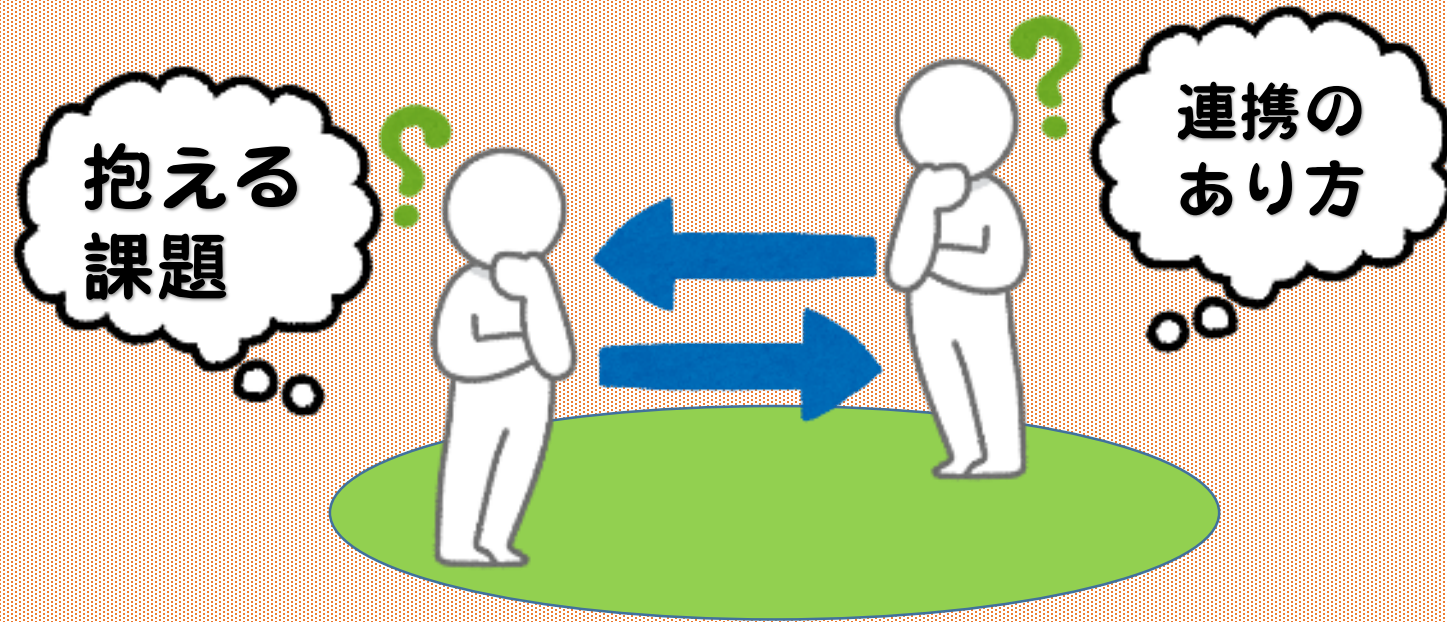
見守りネットワーク

子ども食堂の発祥

自治会・町会による見守り活動

新たな事業を生み出すことより、  
連携強化による効果に期待ができます。

しかし、「それぞれが抱える課題」「連携のあり方」に相違があるままで、連携がうまく図れるだろうか？



専門、立場の違う人が集まると話し合いが難しくなる。

課題認識が違う

人は関心あるものを見る

判断基準は経験からくる



# 課題は同じでも立場・活動によって見え方や できることは異なる！

学習支援団体



## 低学力

発達障害  
学習環境

いじめ・  
嫌がらせ

居場所の  
なさ

子どもの  
孤立

衣食住

貧困

親の孤立

民生・児童委員



## 見守り

居場所  
のなさ  
つながり  
のなさ

衣食住

子どもの  
貧困

発達  
障害

家庭  
環境

親の  
貧困

学習  
環境



そこで、地域住民・団体自らが地域の福祉課題を**共有**し、  
解決の糸口を探るための**場づくり**が必要だと考えました。

それが



地域課題を共有・協議するための場  
**「助けあいプラットフォーム」事業**

正解がないからこそ、課題を共有しながら、  
試行錯誤する、話し合う場が必要

# 六郷地域をモデルに助けあいプラットフォーム事業を立ち上げることにしました。

六郷地域の関心と区で策定された「おおた子どもの生活応援プラン」から今回のテーマを

**「子どもの課題を共有する場」**としました。

平成29年      平成30年

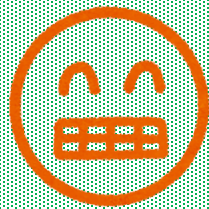
開催日：11/21、12/5、2/6、2/20の全4回

参加者：約30名（のべ106名）

自治会・町会、民生委員児童委員（主任児童委員）、  
青少年対策地区委員、小中学校、児童館、社会福祉法人、  
NPO法人、地域包括支援センターなど

# 実施内容

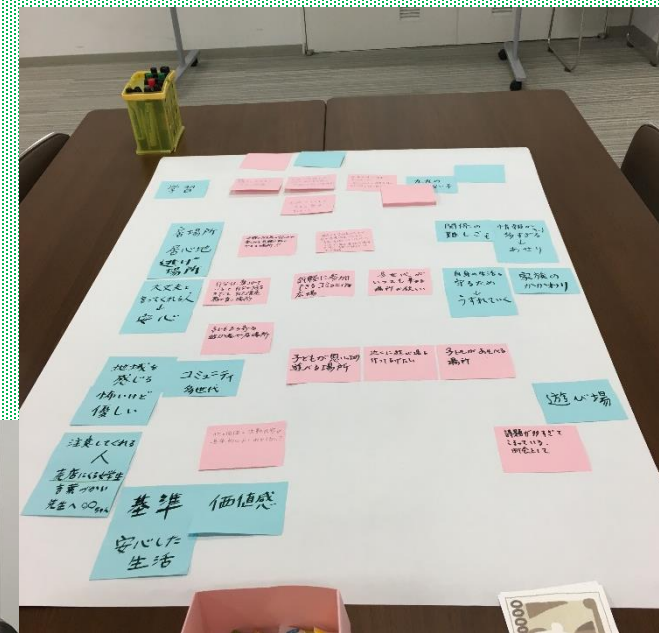
日にち	テーマ	内容
11月21日	目的の共有化とお互いを知ろう	社協からの趣旨説明 自己紹介とそれぞれの活動内容について話し合いました。
12月5日	各団体が抱える課題を共有しよう	活動で困っていること、本当は取り組みたいことなどについて話し合い、さらにどうして困っているのか、取り組みたいのか、その背景（エピソード）についても話し合いました。
2月6日	課題を掘り下げよう	第2回目で話し合いで明らかになった課題を整理分類し、その課題ごとに本質を探るため、なぜそのようになっているのか、掘り下げを行いました。
2月20日	六郷助けあいプラットフォームで出来ることを考えよう	解題の本質を探ったことによって明らかになった課題をもとに、みんなで協力して出来ること、つまり、六郷助けあいプラットフォームで出来ることや足りない機能について話し合いました。



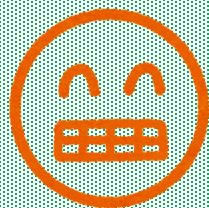
# 話し合いで出た課題

## Aグループ

- 子どもたちが安心して遊ばせる場所がない。
- 学習支援も大切と思うが、町内にフィールドアスレチック場をつかって、身体から健全な子どもを育てたい。横で見守り、老後を過ごしたい。
- 学習やマナーを学ぶことができる場所、タイミングがない。昔は銭湯が居場所だった。子ども同士で楽しみ、大人との係わりで学ぶことができた。
- 親になるための悩みや楽しみを共有できる場所がない。いつでも集まれる場所があれば、子育てに悩んでいる方の支援ができると思う。
- 情報に振り回される傾向がある。健診で、5つ以上の単語を言えないと要注意のようなことを言われる。子育て中の親が情報に振り回されている様子。
- 守秘義務の厳守、行政から調査を依頼されるが、その後どうなったかわからない。子どもの支援であれば、近所のおばさんとしての方がご飯を食べさせたり、話を聞いたりと直接支援ができる。立場が支援をできなくさせ、もどかしい。







# 話し合いで出た課題

## Bグループ

●子どもは人と直接かかわることをめんどくさがるため、年の違う人との接し方がわからない。でもSNSを通じて、簡単につながってしまう。

●乳幼児のママが、必要なときに専門職へすぐつながれるしくみがあるといい。以前、児童館へ通っていた親子が転居することになったが、理由は、集合住宅階下から子（ADHD）の騒音苦情だった。児童館へ相談がなかったので支援できず悔しかった。若い世代はSNS等を使った相談がしやすいのかもしれない。

●中学校になると小学校で身についた習慣が崩れる。身支度（手洗い、歯磨き、食事の好き嫌い）。

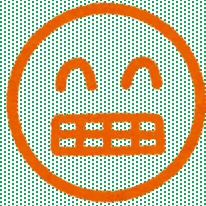
●大田社協の夏ボラでボランティアが来るが、継続してもらえないか。

●行事の企画をしてくれる若手（50～60代）がほしい。

●勉強（足し算、引き算、読み書き）がわからない生徒が多いので、学習ボランティアがいたらいい。







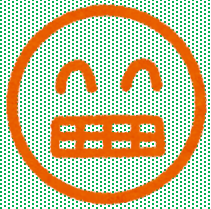
# 話し合いで出た課題

## Cグループ

- 親の環境（心身の状況や貧困）が子どもの背景にある。
- 昔は、PTAと話し合う機会があった。そこで、気になる子どもの情報について、民生委員の耳に入れてくれていた。現在は、そのような場がない。また、運動会などの機会を使い「私たちは良い席でお子さんの写真が取れたから」などと言って、気になる家庭のお母さんに話しかけるきっかけを持っていた。今はそういったこともできないため、PTAとのつながりをつくりたい。
- 学校と情報を交換する場が必要と感じるが、「個人情報」の問題があり一向に進まない。この状況を何とかしないといけない。
- 昔と違い、子どもの情報を伝えにくい。しかし、必要に応じて伝えている現状もある。情報の発信の仕方を工夫することでクリアできないだろうか。
- 「個人情報」ではなく、「課題情報」とすることで、事例検討を通じて、学校で起きていることを地域に伝えることができるのではないか。
- 昔は、PTAから町会活動に入っていった。もう何十年もメンバーは同じ顔ぶれ。さまざまな人が混ざり合った支援が必要と思う。







## 話し合いで出た課題

### Dグループ

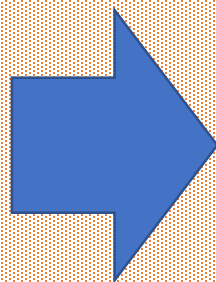
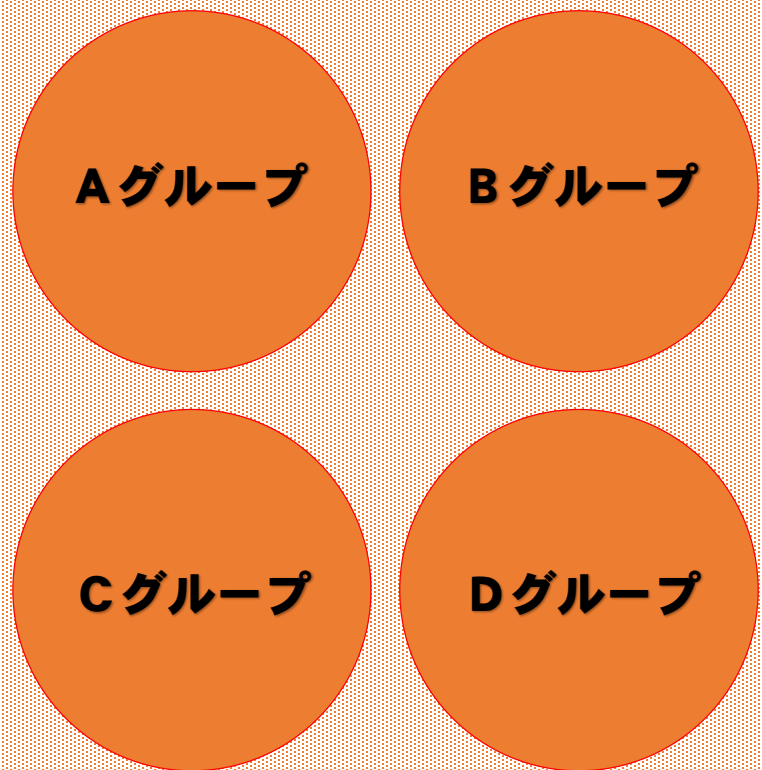
- 子どもが思いきり遊べる場所がない。子どもからは、特にボール遊びができないという話を聞く。  
→公園などは、ボール禁止で安全に、思いきり遊ぶ場所がない。
- 遊具などはなくて良いのでただ、スペースが欲しい。その他にも、おしゃべりしながら勉強できる場所が欲しい。図書館はお話できないので勉強が教えられない。
- 子どもだけでなく、親御さん自体も支援が必要な人は多い。
- 保護者の学校に対する要求が多様で対応できない。例えば、家庭教育がしっかりしているところは、進学塾のようなことを求め、家庭教育に関心のない家庭は、学校で遊ばせて欲しいという相容れない要求がある。個人主義的な考え方が背景にあって多様な役割が求められているがどんどんエスカレートしてわがままになっている。
- 個人個人の考えが多様化してきているので対応が困難な時代になった。







# 課題を分類すると・・・



4つの課題カテゴリーに分けられた

子ども

親・家庭

つまり、子どもの課題を解決するには  
この4つの課題の壁を乗り越えることが必要

支援者

人材



# 課題の掘り下げ方

## 問題解決のステップ

1. **What** (何が問題か)
2. **Where** (どこが問題なのか)
3. **Why** (なぜそうなっているのか)  
👉ココが掘り下げポイント。 **なぜ？なぜ？**を繰り返す
4. **How** (どうするのか)  
⇒**本当に？** (反証してそれが正しいか確認)



# 見えてきた課題の本質

## 子ども

- 子どもの実際（コミュニケーション方法・遊びなど）がわからないことが多い。
- 「わからない」ということも地域の課題である。

## 支援者

「個人情報保護」は壁ではなく、「個人情報をどう使い、管理するのか」の情報が共有されていないことが不安につながっている。ただし、本人同意を得ることは容易ではない。

## 親・家庭

- 必要なのに相談できない人、孤立している人が相談できる仕組みが必要
- SOSが出せる地域づくりが必要

## 人材

- ライフスタイルが変わってきていることをとらえられていない。
- 手伝ってほしいことが明確にできていない。
- 今までのやり方を変えるのは大変である。



# 連携して取り組めること

- 支援者側がしっかりニーズを把握する。
- 支援者と支援されるの関係ではない交流の場、機会をつくる。
- いろんな側面の個人情報保護を勉強する。
- 助けあいのルールづくり
- 出来ないことを明確にした求人募集
- 知らない団体とももっと関わりを持つ



# 地域に足りない機能【募集掲示版】

- 子ども食堂や学習教室  
⇒目的をきちんともったもの
- インターネットに関わるしくみ
- 親・子と地域が知り合える環境
- SNSやネットによる情報発信機能

**この話し合いの続きは  
第2部へ**

**ご清聴ありがとうございました。**

# 本日のタイムスケジュール

時間	内容
18：30	開会のあいさつ
18：35	第1部 報告会
19：05	小休憩
19：15	第2部 話し合いの場の説明
19：25	アイスブレイク
19：40	子どもについての話し合い (15分×2回)
20：10	交流タイム
20：25	まとめ
20：30	終了